

じょうろん  
序論

サミット生活のセッティング ⇒ 御座 ⇒ 主権、統治

「サミット生活のセッティング」とはどういう意味でしょうか。

私たちは、イエス様を主キリストとして信じて告白して受け入れた瞬間、サミットの座にすでにいます。そのようにサミットになった私たちにある、いちばん大きな祝福が御座の祝福です。

「御座」「御座の祝福」ということばをよく聞くでしょうが、みなさんは、どのように理解していますか。



どこか遠くにある、想像もできない大きな世界に座っておられる神様だと思っていますか。私たちが熱心に祈り、御座の祝福を見つけて味わわなければならないとがんばっていますか。

もっと誠実に信仰生活をすれば、その御座の祝福が自分にもっと臨むのではないかと考えていますか。

私たちは、御座がどこにあり、なんであるかを知ることはできません。

私たちが探し求めて行けるところでもありません。

御座は神様がおられるところです。

イエス様を信じて受け入れた人にいちばん最初に「神様はどこにおられますか」と質問することがあるでしょう。受け入れた人は「私の中におられます」と言いますが、時には「天におられます」と言う人もいます。

神様は救われた私たちの中におられます。

三位一体の神様が私の中におられます。それは、三位一体の神様と私たちが「ひとつとなった」ということです。ほんとうに、とても大きなすばらしい祝福です。

神様は、私を御座として、私の中に座っておられます。

そこにおられるので、私の中に神の国が臨むのです。



せんげつ み  
先月に見た、イエス様が教えてくださった主の祈りの核心の内容をもう一度、見てみましょう。

わたし  
私がまだ救われる前から、すでに天では私の救いが定められていて  
その神様のみこころが、地で、土である存在の私に成し遂げられました。  
「みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。」というのは、  
すでに完了したということです。



つち そうぞう わたし なか しゅ せいれい かみさま じしん はい こ  
土で創造された私の中に、主の聖霊＝神様ご自身が入って来られたのです。  
そうせいき しょう ぜんあく ちしき き み じけん かみさま だんぜつ かいふく  
創世記3章の善悪の知識の木の実の事件によって、神様と断絶したのですが、イエス・キリストを通して回復  
しました。それゆえ、「天のみこころが、地の私に成し遂げられ、完成され」ました。ですから、私たちはいま、私の生活に、ただ神様のみこころだけが現され、成し遂げられることを願う祈りの中に入るべきでしょう。



そのように毎日、神様の統治と治められることの中で、神様のみこころだけが自分の生活の中に現れるようにと祈る人を通して、237を生かす答えが成し遂げられるのです。これが、レムナント日のメッセージで語られた237の準備「世界教会」という内容の核心です。

もう、自分の思うどおりに、自分の願いがなされることを祈ることより、ただ私の生活に神様のみこころだけが現されるようにという信仰によって願い、祈るべきです。

もし、自分の思い通りにならず、自分に苦しみや問題があっても、神様をうらむことはできません。私が生きている間、私の生活が、まったく237と関係ないように流れるとしても、毎日、生活の中で神様の主権を認めて生きているなら、それだけで十分です。

パク・チョンヒョク先生の働き人へのメッセージでは、すべて「キリストにあって（キリストの中から）」であるべきだと語られました。それが、この序論と通じることでしょう。

サミット生活のセッティング、御座、主権と統治ということをおぼえ、1か月、学院福音化のテキストを見ていきましょう。